

広島大学キャンパス内における 体調不良者発生時の対応について

宮内 俊介¹⁾, 日山 亨¹⁾, 吉田 真帆子^{1)*}, 吉野 敦雄¹⁾
三宅 典恵¹⁾, 岡本 百合¹⁾, 角田 明²⁾

キーワード：大学健康管理, 応急処置, 自動体外式除細動器

Management of Persons with Medical Problems on the Hiroshima University Campus.

Shunsuke Miyauchi¹⁾, Toru Hiyama¹⁾, Mahoko Yoshida¹⁾, Atsuo Yoshino¹⁾
Yoshie Miyake¹⁾, Yuri Okamoto¹⁾, Akira Sumita²⁾

Key words: University health care, first-aid treatment, automated external defibrillator

はじめに

広島大学内において、学生や職員等、体調不良者が発生し、保健管理センターで休養したり、場合によっては、救急車を要請したりする事例は数多くある。広島大学は東広島市にあるメインキャンパスの東広島キャンパス、広島市にある医療系の霞キャンパス、そして、同じく広島市にある法学と夜間制の東千田キャンパスの3キャンパスから構成される。救急対応において、特にメインキャンパスである東広島キャンパスでは、その地理的特徴から、いくつかの課題が挙げられる。それらは、①東広島キャンパスは東広島市の郊外に存在することから、救急車を要請しても、現地到着までに時間がかかること、②東広島キャンパスのすぐ近隣に救急対応できる医療機関がないことか

ら、体調不良者の救急車収容後も搬送し、医療機関到着までに時間がかかることがある。そして、東広島キャンパスの面積は約249万平方メートルあり、国公立大学のキャンパス面積では、九州大学・伊都キャンパス（約272万平方メートル）、筑波大学・筑波キャンパス（約258万平方メートル）に次ぎ、第3位の広さである。③東広島キャンパス内がとても広いと、保健管理センターに、体調不良者の対応のために現地往診依頼があったとしても、現地到着までに時間がかかる部署が多いことも、課題の1つである。そのため、迅速な対応が必要な場合に、保健管理センター職員の現地到着を待ち、保健管理センター職員の診察後、救急車要請をしていると、それだけでかなりの時間が経過してしまうことになり、場合によっては生命に関わることも考えられる。そのため、キャン

1) 広島大学保健管理センター

2) 広島大学教育室教育部教育支援グループ

* 現籍：県立広島病院腎臓内科

1) Health Service Center, Hiroshima University

2) Education Support Group, Department of Educational Affairs, Education Office, Hiroshima University

* Department of Nephrology, Hiroshima Prefectural Hospital

バス内での迅速な対応を可能にするため、保健管理センターでは各支援室職員等と協力して、キャンパスごとの「傷病者・体調不良者対応フロー」を作成し、2021年度以降、活用している。本稿では、その「キャンパス内体調不良者対応フロー」の概要を示すとともに、保健管理センターが行っている自動体外式除細動器（AED）講習会や授業での応急処置に関する内容を紹介する。

1. 体調不良者対応フロー

東広島キャンパスの体調不良者対応フロー学生用を図1に示す。このフロー図の特徴は2つある。1つは、保健管理センター職員と各支援室職員等の役割を明確にしていることである。このフローは各支援室等と意見交換し、作成した。このフローにより、お互いのすべきことがより明確に

なり、体調不良者発生時にスムーズに対応できることにつながる。特に、新人職員等の救急対応の際に役に立つものと期待している。また、もう1つの特徴として、各部署に一時休養スペースを確保することがある。たとえば、近年、夏場の気温上昇が激しく、熱中症のリスクが高い期間が長い。軽度の熱中症の場合などは、体調不良者を、炎天下、公用車や車椅子等で保健管理センターまで搬送するよりも、すぐ近くの各部署の一時休養スペースにて休養させ、そこでクーリングや水分補給等してもらう方が、体調不良者自身のみならず、担当支援室職員にも楽であろう。もちろん、保健管理センターに連絡してもらい、保健管理センター職員が一時休養スペースに往診して状態を確認するなどして、適宜、指示を出すようにしている。軽度の熱中症だけでなく、過呼吸症候群、

学内での傷病者・体調不良者対応フロー学生編(東広島キャンパス、平日開室時間内) 20230612

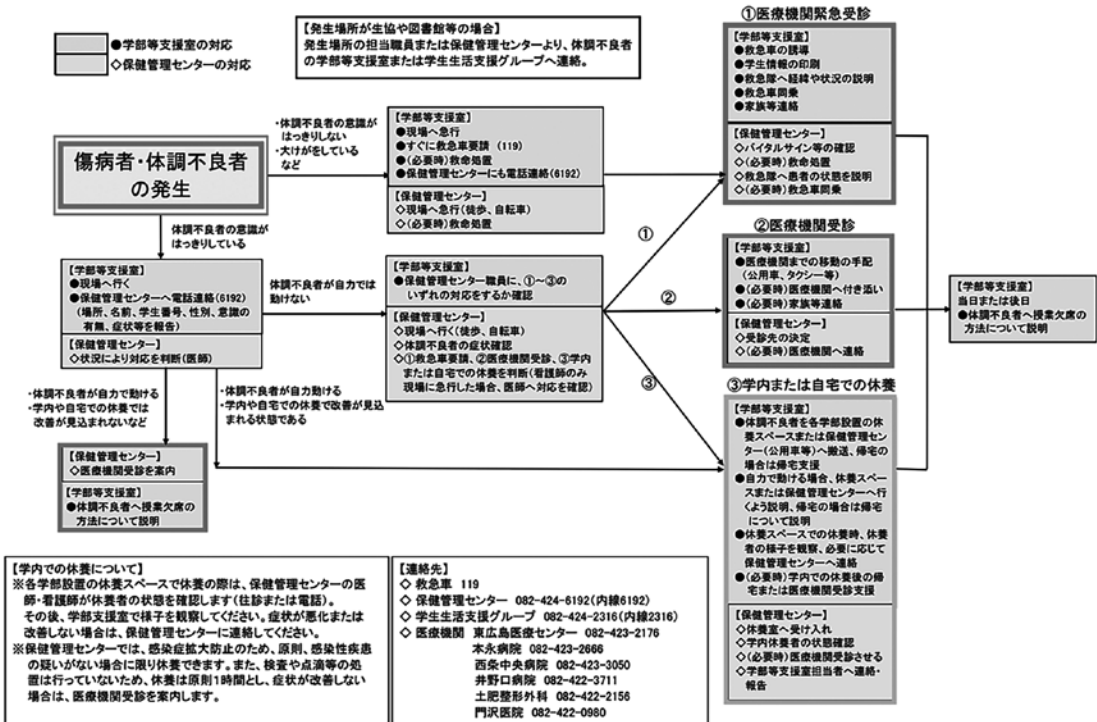


図1. 学内での傷病者・体調不良者対応フロー学生編 (東広島キャンパス)

に所属する内科医師1名と看護師（1名または2名）が担当している。講習会は毎月1回開催し、開始時間は学生が参加しやすいように4限目終了後（午後4時15分から）とした。2023年7月から9月の合計3回の開催で19名（うち外国人留学生5名）が本講習会を受講した。一度の講習で日本語と英語双方で説明をすると規定の時間で十分な学習効果が得られないと考えられ、留学生の受講希望者に対しては日本人とは別枠の講習日程を設定し、英語での講習を実施した。図3に講習会終了時に実施したアンケート調査結果を示す。半数以上がAED講習の受講経験がなく（図3-D）、受講終了後には全員が目の前で傷病者が発生した際にAEDを用いた心肺蘇生法を実践したいと回答した（図3-F）。一度でもAED講習会を受講し、

デモ機を操作することで、実際に心肺停止の現場に遭遇した際に積極的にAEDを使用する行動変容に繋がると考えられる。AED講習会については事項以降で述べる保健管理センターのホームページ（<https://health.hiroshima-u.ac.jp/>：図4-B）や保健管理センターが担当する講義で紹介する他、広島大学消費生活協同組合の協力で学生食堂にポスターを掲示（図4-A）するなど周知活動を実施しており、今後より多くの構成員の参加を見込む。

3. 授業

広島大学保健管理センターでは学部学生を対象に「学生生活概論」の講義を担当している。全15回の講義のうち3回を内科が担当し、そのうち1回を「応急処置について学ぼう」というテーマで体調不良者発生時の応急、救命処置について解説している。講義では主に①体調不良者対応フローに従った学内での体調不良者発生時の対応、②心肺蘇生法、AEDの使用法、③アナフィラキシー発生時のアドレナリン注射液自己注射キットの使用法、④体調不良時の適切な病院受診、救急要請の判断方法を取り上げている。令和5年度からは講義の中で保健管理センターでのAED講習会を紹介し、講義で学んだ知識を実践する機会を提供している。また、「キャンパスライフとフィジカルヘルス」の回では熱中症、気管支喘息、頭痛、失神、気胸など大学生活で起こり得る疾患について解説し、受講学生の知識習得を目指している。

4. おわりに

広島大学保健管理センターでは、各キャンパスの特性を踏まえて、キャンパス毎に体調不良者対応フローを作成し、体調不良者発生時には円滑な対応が可能である。また、AED講習会や担当の講義を通じて構成員が体調不良者発生時に積極的に救護活動ができるように啓発している。これらの活動を通じて、学生が安全な大学生活を送ることができるように今後も努めていきたいと考えている。

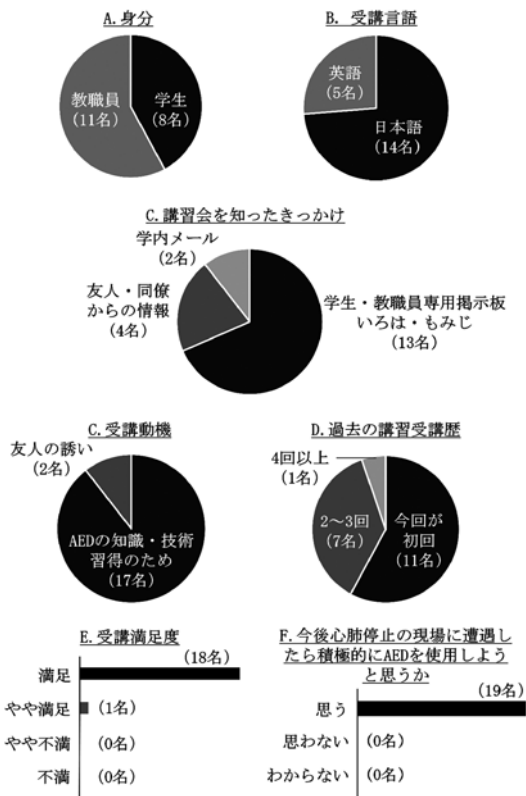


図3. AED講習会に関するアンケート調査

(A)



(B)



図4. AED 講習会の学内掲示ポスターと保健管理センターホームページのリンク

(A) 学内掲示ポスター（保健管理センターおよび、学生食堂に掲示）。

(B) 保健管理センターホームページ（<https://health.hiroshima-u.ac.jp/>）からの抜粋。